感染性胃腸炎（ロタウイルス）

「ロタウイルス」は、乳幼児がかかる感染性胃腸炎の代表的な原因ウイルスです。ロタウイルス胃腸炎は、例年、３～５月に流行し、生後６箇月～２歳までにかかることが多いです。５歳までにほぼ全ての子どもがロタウイルスに感染するといわれています。大人はロタウイルスに何度も感染しているため、ほとんどの場合、感染しても症状が出ませんが、乳幼児は激しい症状が出ることが多く、特に初めて感染したときは症状が強く出ます。

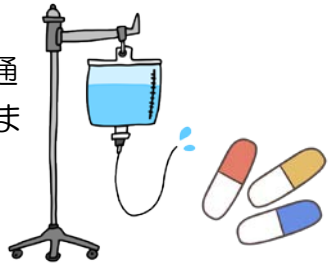
★症状★

〇潜伏期間は２～４日間です。

〇主な症状は、水のような下痢、吐き気、おう吐、発熱、頭痛です。このほか、米のとぎ汁のような白っぽい下痢便が特徴です。これらの症状が数日間続き、３～７日で自然に治ります。乳幼児の場合、激しい下痢によって、脱水症状を起こしやすく、脱水症状がひどくなると、点滴や入院が必要になることがあります。

〇合併症として、脳炎・脳症、肝機能異常、急性腎不全、けいれんを引きおこすことがあり、死に至る場合もあります。一命を取り留めたとしても、後遺症が残ることもあります。意識の低下やけいれんなどが見られたら、すぐに医療機関を受診しましょう。

★治療方法など★

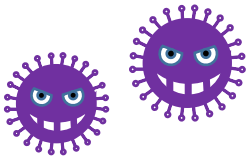


〇ロタウイルスに効果のある抗ウイルス薬はありません。このため、通常、脱水を防ぐための水分補給や体力を補うための栄養補給が行われます。また、合併症が起きた場合、その症状に合わせた治療を行います。

なお、止しゃ薬（いわゆる下痢止め薬）は、症状の回復を遅らせることがあるので使用しないことが望ましいです。

★感染経路★

〇ロタウイルスは感染力が非常に強く、わずか１０～１００個のウイルスが口から入ることで感染します。ロタウイルスは患者の便の中に大量に含まれているため、患者の便を処理後、手洗いしても手や爪にウイルスが残っていることがあり、ロタウイルスの付いた手などから感染が広がります。



★予防方法★

〇オムツの適切な処理と手洗いの徹底、ワクチン接種です。オムツを交換するときは、使い捨て手袋を着用し、捨てる場合はポリ袋に入れて捨てます。手洗いは指輪や時計を外してから、石けんと流水でしっかり洗います（手洗いの方法については、下記のＵＲＬ参照）。

・「京都市こどもの感染症」　手あらいについて
（http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000197/197526/tearai.pdf）

なお、ロタウイルスの消毒にはアルコール消毒液ではあまり効き目がありません。次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤）を使用しましょう。

〇ロタウイルスには２種類のワクチンがあり、接種することで重症化を防ぐことができます。
接種対象者は乳児で、両ワクチンとも接種できる期間が限られています（１回目の接種は生後６週から１４週６日までの間に行うように推奨されています。）。
令和２年１０月１日より、定期予防接種となったため、無料で受けることができます。
詳細については、医療機関に御相談ください。

気になる症状がある場合は、すぐにかかりつけの医療機関を受診しましょう！

★お問合せ先★
〇京都市保健福祉局衛生環境研究所　微生物部門
（TEL:075-606-2676　FAX:075-606-2671）

（令和３年３月編集）